

授業科目	授業概要	開講日	形態
考古学特論A	本講義では、日本列島における生活環境の復元を環境考古学的な手法を用いて弥生時代、古墳時代を事例をもとに考察する。	金曜・3-4限	ハイブリッド
アジア美術史特論A	本講義では、奈良時代～平安時代までの仏教彫刻史について扱う。最近の研究成果を踏まえながら、奈良・京都を中心とした寺院に安置される重要作品群について考察する。	木曜・5-6限	対面
アジア美術史特論B	本講義は、江戸時代のやまと絵の展開について注目する。江戸時代の絵画史の概要をおさえつつ、土佐派・住吉派・琳派といったやまと絵系絵師たちの代表的作品を詳しく観察し、その表現の特色や制作背景について考察する。	水曜・7-8限	対面
古代文化学特論	本授業では近年の研究動向や成果を踏まえて、前半では奈良の考古学について、後半では東大寺の歴史と仏教美術について考察する。	金曜・9-10限	対面
文化財学演習A（木簡学）	平城宮跡の発掘調査で初めて木簡が出土してから60年以上が経ち、木簡は今や古代史研究に欠かせない基本史料の一つとなった。木簡研究が始まった当初に示された木簡学の理念が定着してきた一方で、従来の枠組みにとらわれない新しい視点の獲得が求められている。このような状況をふまえ、日本の木簡学のアップデートを目指す。	水曜・午後	対面
文化財学演習B（東アジア考古学）	本講義では、7-8世紀における日本古代都城について東アジアの都城遺跡との比較研究を試みる。考古学が中心となるが建築史や仏教美術史、宗教学などの成果も総合的に検討する。（※本授業の履修は同特論Bの既履修者に限る）	水曜・1-2～3-4限 隔週授業	対面
文化財学演習C（歴史考古学）	本講義では、文化財特論C（歴史考古学特論Ⅰ：平城宮・京跡をフィールドとして、歴史考古学の概念と研究史を学び、木器・石器・金属器等を教材として歴史考古学の研究手法を習得することを目指す）で学んだ歴史考古学の研究手法を発展させ、より高度な研究視座の習得を目指す。	水曜・午後	対面
文化財学演習D（日本古典文化資料論）	日本の古典資料のなかで大きなウェイトを占めるものに、仏教関係資料がある。本講義では、実際の資料（文化財）事例をもとに、基礎的な知識から個別の資料まで、総合的な情報を理解していく。	水曜：5_6限	対面
文化財学特論F（古代文化学）	文化財学としての埋蔵文化財・考古学について、専門を異にする橿原考古学研究所の研究員が分担するオムニバス形式の授業。日本考古学をめぐるさまざまな課題や最新の研究成果について、それぞれの専門分野における視点から考察する。	金曜：7-8限	対面